



# 鑑橋

# 随想



## 継続は力なり

トレックス  
常務 谷口 洋司



私は約25年前、中国を訪ねたことがあります。その旅の途中、山東省の曲阜という町を訪ねた時の出来事です。曲阜は「儒教の祖」といわれる孔子の故郷です。そこには孔子の墓所「孔子廟」があり、孔子の子孫が「墓守り」をいらしてました。墓所に一歩入った瞬間驚きました。そこに立っている石像の全ての首がはねられていたのです。

墓守りの「孔」さんの説明によると60〜70年にかけての約10年間、中国では江青女史ら4人組による「文化大革命」の時代で、その一環として「孔子批判」運動があり、紅衛兵と呼ばれる集団

が大挙して墓所に押し寄せ、次々と石像の首をはねたといひます。孔さんは「歴史遺産が破壊されたのは大変悔しいが、もつと悔しいのは文化大革命の10年間、中国は一種の鎖国状態にあり、その間、政治、経済、教育、軍事等、全てが歩みを止めました。その間、周辺国日本、韓国、シンガポール、香港等は飛躍的な発展を遂げ、中国は取り残されました。この10年間の遅れを取り戻すには100年かかるのではないかと思ひます。

我々の仕事においても同様のことがいえます。日々続けることが大切であり、まさに「継続は力なり」であります。

## 我が故郷

第一商品  
取締役 浅野 信行



私の生まれ育った田舎は、北海道の余市町で、千歳空港から高速道路を利用して約2時間。車で隣の樽町まで30分、札幌市まで1時間程度。北海道の西部、積丹半島の東の付け根に位置しています。

現在の人口は、2万2、000人だそうですが、昭和29年まではニシン漁により発展し、いわゆる「ニシン御殿」と呼ばれるくらい町はその基礎を築きました。今でもニシンの歴史を物語る水産博物館や重要文化財の建物があります。

今ではニシンに代わって「エビ」、「イカ」、「カレイ」漁が盛んに行われ、北限の鮎の生息地でもあるようです。また、余市町は「ウイスキー工場」があり、TVの「コマーシャル」でよく放映されています。海と山に囲まれ、ウイスキーづくりに適した理想的な自然環境のようです。

たまに行くスナックで入っているポトルは、「余市」というシングルモルトウイスキーと決めています。普段仕事の忙しさの中で意識しない「我が故郷」ですが、独りで暮らす母のことはもちろん、子供の頃自然の中で一緒に遊んだ仲間のことなど、生まれ育った田舎を思い出しながら飲むお酒は格別に美味しく、明日への活力に繋がっています。

## 早いもので

豊商事  
取締役 浦橋 健



昭和43年3月、豊商事に入社して早いものでこの春で40年目となる。私は島根・広島県境の山村に生まれ育ち、のんびりと高校生活を過ごしていた。そんな私に転機が訪れたのは、受験を終え、帰宅した翌朝だった。両親が私の前で正座し、当時父が営んでいた会社があきらめたくれと言われたのだ。

それ以来、業務畑一筋に歩んできた私は、調子が良ければ仲間と祝杯、悪ければヤケ酒、それがたまたまか、50を過ぎて身体があちこちにガタがきている状態だ。しかし、もうひとふんばり。二人の息子のうち一人は昨年結婚し、もう一人も今年中にはその予定だ。「孫はかわいい」とみんなが言うので、その時を楽しみに相場に向かっている毎日だ。

## テニスは楽し!

明治物産  
監査役 小林 勇



5年前から趣味と健康のために毎週土曜日、テニス教室へ通い始めた。インドアの冷暖房完備なので天候に左右されず、レッスンはクラス別で1時間30分行われる。

通い始めの頃は教室から帰ると疲れと筋肉痛でぐったりであった。レッスンでは足がもつれてずっこけたり、膝を擦りむいたり、慣れないサーブの練習で肩を痛めたりと散々だった。

だが、コーチのもと「目指すはウインブルドン」のセンタコートです」などの緊張をほぐす冗談で、劣等生も最近はずいぶん楽しくなっている。ポイントゲームを

しながら楽しい時間を過ごしている。

思いっきり体を動かして、プレーに集中し、大量の汗をかいた後は気分爽快で、その日のビールの味が格別なのを言うまでもない。

テニスを始めてからは風邪をひかなくなり、階段の上り下りも苦にならなくなった。

昨今はシャラポア人気でテニス界が隆盛を誇り、テニス人口が増えていることはうれしい限りである。いつまで続くのか分からないが、「進化するオヤジ」は今日もコート内をどたばたと駆け回り回っている。

# 先物 Archives

**開所披露パーティーに800人**  
57年3月23日 引出物は金色鉛筆

東京金取引所(現東工取貴金属市場)が誕生してちょうど、四半世紀が経った。渡辺佳英理事長が吐露した「小さく産んで大きく育てる」の名言通り、今や日本最大の先物市場に育った。N.Y.M.E.X.市場に伍して、世界を代表する貴金属市場として、時々刻々、国内外にTOCOM相場を発信し続ける。

**初値2、600円**

東京金取引所が産声を上げたのは昭和57年(1982)3月23日、午前10時30分のことだった。初立会に先立ち、渡辺理事長が挨拶、田淵守市場管理委員長(三井物産常務)の手締めに続いてセリが始まった。多くの報道陣が見守る中、三井物産が2、620円(6月



披露パーティーで祝辞を述べる安倍通産大臣  
4名の来賓から祝辞が述べられた。まず最初が通産大臣の安倍晋太郎

この記念すべき初立会を迎えるに当たって東金取ではセリの特訓を行った。一森市場課長の指示により、1回の手振りは50枚以内に限定し、ハナ取りは、相当程度セリが行われた後で行うこととした」と、当時、東金取理事長として市場作りを裏方役で尽力した坪井秀雄氏は記している。

初立会が終わると、ホテルオークラ・平安の間に場所を移し、12時30分より開所式典が行われた。そして、岡達夫常務理事の司会で披露パーティーに移る。30年ぶりの商品取引所の誕生であり、しかもゴールドという「通貨と商品」の2つの顔を持つ超ビッグな商品の上場という二重の意味もあって、出席者は800余名に上った。

**金市場産みの親**

次には、安倍通産大臣が参議院議員の斎藤栄三郎氏。自民党の金市場問題懇談会の座長として安倍氏の意を体して奮闘した人物。商品取引所となる。いま商品先物市場の吹くアゲインストの風をモロに受けながら、東工取貴金属市場はこれからの力強い歩みを続けることだろう。



開所式で式辞を述べる渡辺理事長

## 劇的な変化に直面すると予想

### 「国際商品市場リポート」

#### 書評

繁栄する米欧、沈滞する日本  
倉沢章夫著(同友館、税抜き1,800円)



利潤を追い求め、潤沢なオイルマネーをはじめとする国際的な投機マネーが世界の金融市場を駆け交っている。原油、金、穀物に代表される商品先物マーケットは、既に、為替、株式、債券と並ぶ金融マーケットとして認知され、規模は拡大の一途。

「投資するなら」商品の時代」といわれるゆえんだ。しかし、残念ながら、日本の商品先物市場は、この世界的な潮流の波に乗り遅れているばかりか、商品取引

員との営業規制が強化されたことで、市場は収縮、逆流にさらされている。著者はサブタイトルにこの思いを込めた。

なぜ、日本の商品市場はととにも、沈滞する日本市場の原因を独自の視点で分析する。著者は、日本の商品先物業界は今後も劇的な変化に直面すると予想、また、そうならなければ成長

近代的な先物取引のルーツといわれるのが大阪・堂島の「コメ取引」。先物発祥の地で、時空を超えた先物を超えた先物取引のルーツといわれるのが大阪・堂島の「コメ取引」。先物発祥の地で、時空を超えた先物を超えた先物取引のルーツといわれるのが大阪・堂島の「コメ取引」。

#### 事務局だより

2月中旬以降、会員売買高の回復の兆しが伺えますが、来年度は会費収入の大幅な減収を見込んだ事業計画・収支予算となります。

事務局では、経費削減を心がけ、効果的・効率的な取組を行い、業界の健全な発展と会員各社が伸びていくための事業展開に努めてまいります。

会員の役員・社員の皆様におかれましては、ご理解のうえ、引き続き協会運営にご協力下さいますようお願い申し上げます。